

地域の一部となれ

特別養護老人ホーム栗林荘 大規模改修計画

私たちは、食卓や寝起き入浴といった体の健康を維持する支援が取に十分に充実しても、**幸福と言うには何かあ足り**ないと毎日の介護を通じて実感していました。介護に関わる全員が、それが何かについて考え、議論し、たくさんのアイデアを出し、時には現在のルールや常識に逆らうこともしました。

今回の応募に際し、改めて自分達の取り組みを振り返り、結局私たちは失われた地域の**互恵互助機能を補おう**としてきたのではないかと気づいた。もともと介護は家族や隣人など地域と切り離されたものではなかったからです。

地域で育ち、地域で暮らし、地域で看取られる人生を支えていた地域の機能が、解体分注し委託化が進んだ今日、人が人らしく生き、死んでいく幸福には、知っている場所や、知っている人々との関わりの中で自分を見出せることが必要です。

本助成金のテーマである「施設を地域に開く」を、私たちは「**地域の互助機能を補完する**」と再定義します。

1. 地域と介護の関係

【地域に開くことの果てにあるもの】

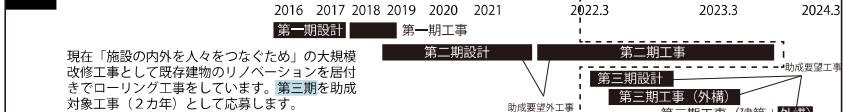
- 理想的な介護を支える**互恵互助は**、地域に向かって新たな持ち込むと言うより、もともと地域にあった機能です。
- 高齢者施設を老いて初めて入る「知らない場所」ではなく、子供も大人も出入りする地域のライフスタイルの一部になるような「よく知っている場所」にしたい。

- 子供の頃によく遊んだ場所、趣味の仲間と交流した**思い出の場所**で、知っている顔に囲まれて余生を過ごせる幸福を実現したい。

- 本施設の（私たちの）**目標は**、本施設自身が**地域の一部**になることです。



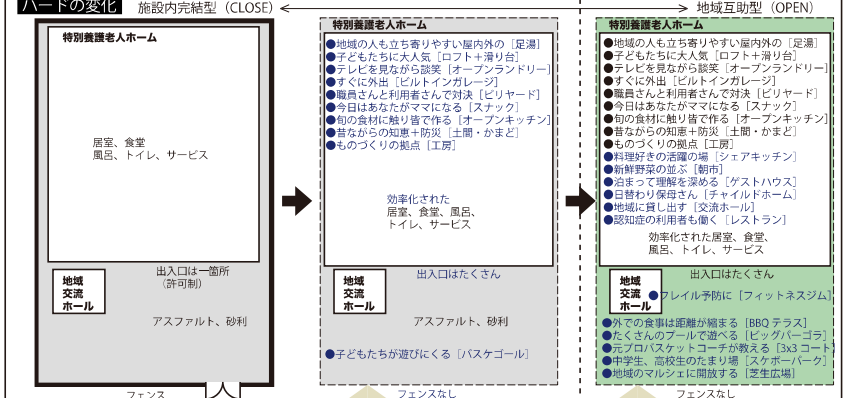
2. 築44年の老人ホームが地域の一部として生まれ変わるプロセス



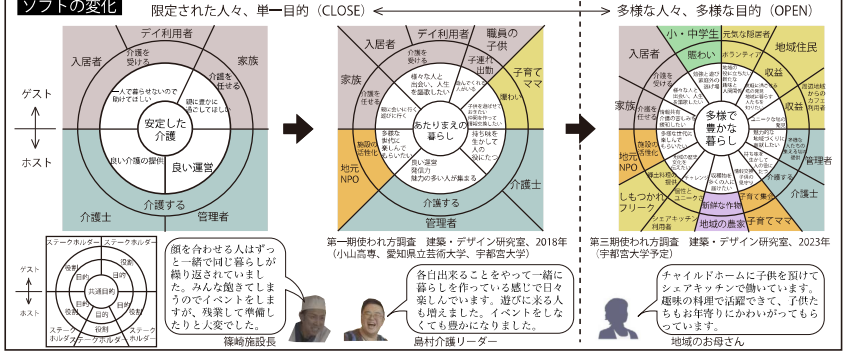
●**工事前の特養栗林荘**
毎日の介護と年に何回か行われる地域交流行事は別物として考えていました。サービスとしての良質な介護を追求していました。

●**第一期工事による変化**
第二期工事で予想される変化「介護士を動かす」ことにより、介護上の個性が響きあがり、まるで街の中で暮らしているような多様な活気をもたらす効果があることに注目しました。

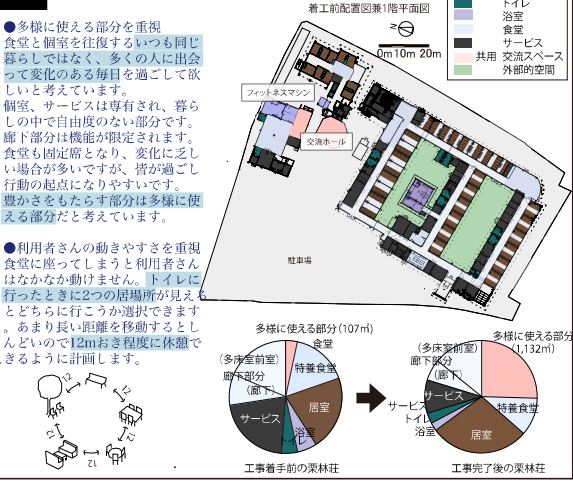
●**第三期工事で予想される変化**
地域仲介力を活かして、地域のニッチな課題や隠れた活力を見出し、受け皿となる場を法内に提供することで、多様な人が集まり、失われた地域の繋がりが役割と成ることを目指します。



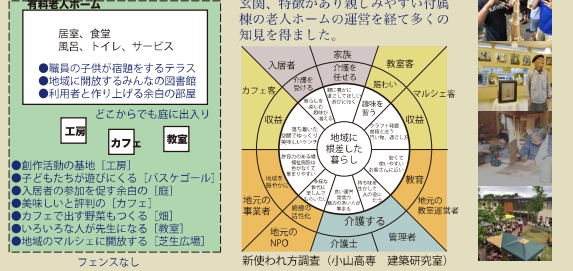
ソフトの変化



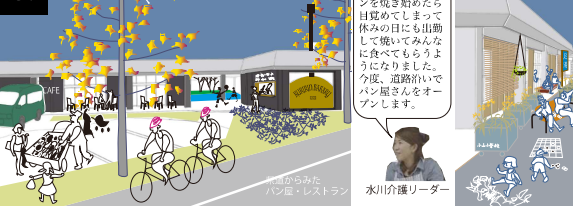
3. 居室と街をどうつないだらよいか？



同一法人先行チャレンジ事例 介護付有料老人ホーム新 2015年



5. 個の好きが絡まり織りなされる多様な風景



4. 地域に大きく開かれた回遊性の高い動線、多様で楽しい空間

